

# No.3 糖尿病療養指導士会だより



発行日 平成 25 年 3 月 27 日 山梨県立中央病院 糖尿病療養指導士会 【担当 臨床検査技師】  
〒400-8506 甲府市富士見 1 丁目 1-1 TEL 055-253-7111 内線 1231~1233

暖かい季節になりました。心機一転の春、日常生活を見直す絶好のチャンスです。  
食事や運動など、これなら自分でもできそう！と思えることから始めてみませんか？

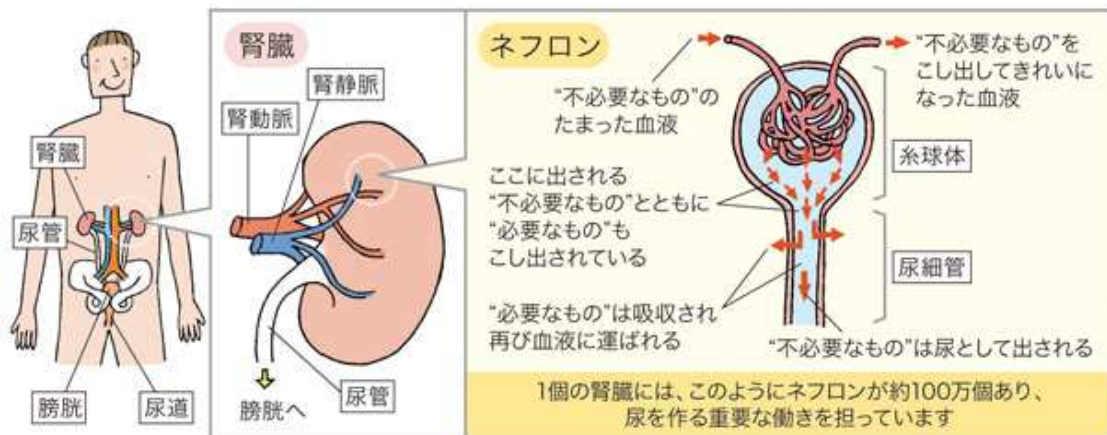
さて、今回は、糖尿病の合併症の一つ「糖尿病性腎症」に関わる新しい検査『尿中 L-FABP』を紹介します。

まずは、腎臓のはたらきについて簡単に説明します。

## 腎臓には主に5つのはたらきがあります

血液から老廃物や毒素を取り除き尿として排泄する  
血圧を調整する  
体内環境を一定のバランスに保つ  
ビタミンDを活性化しカルシウムの吸収を促す  
血液をつくる働きを助ける

腎臓が悪くなると、  
これらのはたらきが正常に  
行われなくなります!!



『尿中 L-FABP』とは？

## 『尿中 L-FABP』は腎臓病の早期発見に有用な検査です

『尿中 L-FABP(尿中 L 型脂肪酸結合タンパク)』は、  
腎臓の尿細管にある物質でエネルギー代謝や脂質代謝に重要な働きをしていると考えられています。

尿細管の血流不全や尿細管への酸化ストレスによって尿中に排泄される量が増えることがわかっています。

尿細管の血流不全  
酸化ストレス

尿中 L-FABP 増加

従来のマーカーは、糸球体や尿細管の組織障害が起きてから尿中に排泄されるのに対し、この尿中 L-FABP は組織障害が起こる以前に排泄量が増えるため、**腎臓病の早期発見に有用**といわれています。

また、**腎臓病の病期進行のリスクの判別**や**治療効果をみる**のにも役立つ検査です。

検査は部分尿で行い、基準値は **8.4 μg/gCr 以下** です。

2011 年 8 月に保険適用が開始されています。

どうして検査が必要なの？

糖尿病をはじめとする生活習慣病は、発症初期は自覚症状がない場合が多くありますので、検査で早期発見することが重要です。自覚症状がないからといって安心せず、定期的に健康診断を受けて、体に異常がないかチェックしましょう。